

おしえて!



わんぱにゃん通信



2016/06/04 No.7

年々、ヒトだけではなくペットの高齢化のニュースをよく耳にするようになってきました。そこで今回はワンちゃん・ネコちゃんのシニアの健康管理についてお話します。

〈いま何歳?〉

まずはじめに、みなさんはご家族のワンちゃん・ネコちゃんが人間で換算するとどのくらいの年齢かご存知でしょうか?

ワンちゃん・ネコちゃんは、ともに生後1年でヒトの成人の年齢になるといわれています。ヒトと異なり生後1年で成長するスピードは目を見張るものがあります。そして、その後は1年ごとにヒトの4歳分くらいの年齢を重ねていきます。

小型・中型のワンちゃんやネコちゃんは大人になるまでの成長スピードは早いですが、老化はゆるやかにやってくる傾向が見られます。

大型犬では、大人になるまでの成長スピードはゆっくりなのですが、老化が早く始まる傾向がみられます。

こうしてヒトに換算した年齢を考えると、かけがえのない大切な家族がこれからどうしたら元気に過ごしていけるのかを考えていきたいですね。

※ 品種や種類、体格などにより個体差があります
(年齢換算表は目安です)



〈シニアはいつから?〉

獣医療の進歩や予防意識・飼育環境の向上などにより平均寿命は年々伸びてきています。犬は、超小型犬、小型犬の寿命が長く、また猫の場合は「家の外に出ない(室内)猫」と「家の外

年齢換算表

ワンちゃん・ネコちゃん	ヒト
1ヶ月	1歳
2ヶ月	3歳
3ヶ月	5歳
6ヶ月	9歳
9ヶ月	13歳
1歳	18歳
1歳半	20歳
2歳	24歳
3歳	28歳
4歳	32歳
5歳	36歳
6歳	40歳
7歳	44歳
8歳	48歳
1歳ごとに+4歳	
15歳	76歳

に出る(室外猫)の平均寿命に大きな差があります。

(右図表 参照)

しかしながら、ヒトと同じように老化現象は起こり、その老化が始まる年齢は一般的に7~8歳といわれています。

平成27年 平均寿命

	2014年	2015年
犬	14.17歳	14.85歳
猫	14.82歳	15.75歳
		室外猫 14.22歳 室内猫 16.40歳

〈高齢のサインとは?〉

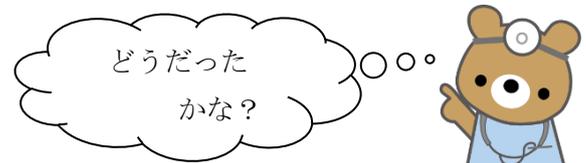
普段のワンちゃん・ネコちゃんの様子を思い浮かべたり観察し、下記の高齢サインの項目に当てはまるかチェックしてみましょう。そして気になる様子がある場合、一度動物病院での診察を考えてみてはいかがでしょうか?

ワンちゃん

- 散歩に行くとすぐ疲れて息があがる、咳をする
- 歩き方がぎこちない
- 物にぶつかるようになった
- 名前を呼んでも反応がないことがある
- 目が白く濁ってきた
- 夜鳴き等、混乱するような行動が増えた
- 寝ている時間が増えた
- 毛が白っぽくなった
- 水をたくさん飲む、尿の量も増えた など

ネコちゃん

- 高いところにのぼらなくなった
- 痩せてきた
- 毛づくろいをする時間が減った
- あまり遊ばなくなった
- 便が硬くなった
- 水をたくさん飲む、尿の量も増えた など



〈シニアの健康管理〉

高齢化に伴ってかかりやすくなる病気の例としては歯周病、僧帽弁閉鎖不全症(心臓病)、白内障、腎不全、腫瘍などがあげられます。

病気の発症を防ぐには、家での普段の食事や適度の運動や体重管理を続けていくなどの健康管理も重要です。また、スキンシップをかねて日頃からワンちゃん・ネコちゃんの体をよく触るように心がけ、いつもと違う行動や症状があった場合には早めに動物病院へ連れて行くことが大切です。

症状がなくとも若い頃から健康診断を受けて基本データを積み重ねていくことも病気の早期発見につながります。早期発見・早期治療ができるように、7歳を過ぎたら半年に1回は健康診断を受けることをおすすめします。

どこが痛い・どこが悪いのかを話せないワンちゃん・ネコちゃんに代わってご家族のみなさんで健康管理をおこなっていき、老後も元気いっぱいにご過ごせるようにしていきたいですね。